



政府及被害民
對田中正造外全志責任

（Faint background text, likely bleed-through from the reverse side of the page, including characters like 田中正造, 責任, 被害民, etc.)



田中正造外同志ノ責任

大正十一年四月
候郵寄

政府及被害民ニ対スル責任
田中正造外同志ノ責任
明治三十一年九月廿六日午後二時四十八分芝
口三丁目旅人宿信濃屋ノ一室内ニ設ケタル鑛
毒事務所ニ飛電アリ館林ヨリ至ル日夕被害民
今出發ス其數一万余人ナリト正造ハ別室ニア
リ會ハ此日ハ群馬縣邑樂郡渡瀨村雲龍寺ニ大
集會アルコトヲハ兼テ兼テ知セシモ此出發ノコ
トヲハ豫知セサリキ而シテ今此ノ報ニ接セリ
後聞ク所ニ依レハ当日ノ集會者大凡八九千人
ナリシカ會議ハ端ナク一變ニテ人負亦處カニ
一万三千余人トナリ今日午後一同出京スルニ

至レルナリト
二十七日午前九時五十分飛電又至ル曰一万
余人此地ニ來レリト蓋シ一行中幸手驛ヨリ發
セシモノニ係ル
全一合一時五十四分又飛電アリ杉戸駅ヨリ至ル
曰一同進行スト
之レヨリ先キ二十六日夜ヨリ二十七日午前ニ
涉リ飛電ノ至ルモノ前後七回所報ノ區々ナル
ヲ以テ遽ニ信シ難シトセリ然ルニ被害民ノ進
行已ニ此所ニ至リ政府ノ警戒防止ニ急ナリト
聞ニ及ニテハ正造又黙視スル能ハス乃チ内務
省ニ至テ情狀ヲ陳ヘ且ツ無益ノ衝突ヲ避ケ又

電話新橋一三二七(京橋區加賀町)協信舎印行

濫リニ請願人進行ノ道ヲ妨ケルナキヲ望ミ
リシニ警保課員等亦之ニ同セリ俱ニ此カ時内
務省ハ電報ハ千人ナリト全課員ハ語レリ
全七時二分又飛電アリ越ヶ谷ヨリ至ル報中
露宿云々ノ事アリシカハ大ニ驚キ且ツ痛憂ニ
堪ハズ急ニ越ヶ谷ニ向ヒ出發ノ用意ヲナス此
時事務所員ナリモノ一人モ居ラス即チ二十八
日午前第一時栃木縣人須永金三郎山田友次郎
二人ヲ留メテ留守セシメ群馬縣人左部彦次
郎ヲ伴ヒ前々日來ル病ヲ推シテ請願人一行ノ
進行先ニ向フ途ニ住ヲ過キ巡查二名ノ橋ヲ衝
ルヲ見ル已ニニテ南足立郡洲江村ニ達ス洲江

村ハ東京府下ナリ時ニ鶏鳴三時車夫等空腹耐
ハ難キヲ訴フ乃ケ旅舎亀屋ニ投シテ飯ヲ炊カ
シム正造ノ車夫朝來馳驅奔走今ハ疲シテマタ
歩スル能ハス乃ケ食后ノ一憩ヲナサシメ正造
亦其間ヲ以テ病軀ヲ休養ス一睡凡ソ二刻強拂
曉旅舎ヲ發シテ北進シ同村字保本間ニ至ル時
ニ午前六七時ノ交騎馬ノ憲兵五騎南スルニ逢
フ蓋ニ最初防止ヲ試シモ力及ハスニテ千住
ニ退却スルモノナラン既ニシテ請願人一群凡
八百人余進行シ來ルニ逢フ巡查一人群ニ先キ
達シテ來ルアリ正造之ヲ我カ傍ラニ招キ諭シ
テ我左右ヲ公ラサシム即ケ巡查刺ヲ通ス千

任警察署詰ニテ竹本有末ト云ク已ニシテ瀏江
村々長坂田庄助來リ刺ヲ通ス蓋ニ此地ハ瀏江
村ノ北端ナリ
待ッコト暫時ニシテ請願人ノ一群又踵キ至ル
乃ケ村長ヲ頼ミテ辻傍農家ノ庭園ヲ借ラシメ
請願人ヲシテ之ニ入ラシム既ニシテ請願人ノ
沓至スルモノ數群農家四五ノ庭園立錐ノ地ナ
ク後シ至ルモノ皆道路ノ兩側ニ充塞ス村長坂
田庄助始メ村會議負壽翰旋最モ妨メ村社氷川
神社ノ境内ヲ借リテ請願人ヲ此ノ大庭ニ集合
セシム其數凡ソ二千四五百人被害人中切齒シ
テ訴フルモノアリ曰吾々カ早川田ヲ發スル時

総数一万千余其大半ハ警吏ノ威嚇ニヨツテ追
帰サレ残り来レルモノモ亦船ヲ奪ハレ橋ヲ擁
セラレ其大半ハ威力ノ為メニ制セラレ或ハ虐
待酷遇至ラサルナキ為メ遂ニ涙ヲ吞シテ帰村
セサルノ已ムコ得サルニ至リ依テ我々一行
ハ道ヲ轉シテ昨夜越ケ谷付込ニ露宿セシニ憲
兵ノ七状ナル夜半馬ヲ驅ツテ吾々露臥ノ頭上
ニ闖入リ其蹂躪ニ逢フモ頭軋离散為メニ溝壁
ニ陥リ負傷セシモノアリ若シ警吏ノ虐待憲兵
ノ蹂躪ニ逢フナクシハ茲ニ至ルモノ必ラス一
万人ノ上ニ出ラタルナラシト云フ
既ニモテ喧囂漸ク静メリ乃チ各着ル所ノ策ヲ

敷テ休息ス此等人負ハ頗ル多数ナル如クナル
トモ鑛毒被害地百數十ヶ村ニ涉ル全体ノ人ニ
アラス此一行ハ洪水ノ氾濫ニ依リ鑛毒ノ夕メ
ニ家宅ヲ侵害セラレ刻下衣食ニ窮スルモノ及
其付込ノ人々ニテ渡良瀬附近二十余ヶ町村
中被害激甚地ノ人々ニ過キス然レトモ其廣衰
ハ東西十六七里ニ涉ルヲ以テ被害人互ニ知巴
ノ人々ニシキ有様ナリシモ各居村ノ被害民等ハ
同舟相憐ノ情ニ依リ雑坐相擁スルモ毫モ喧噪
セズ謹慎自ラ持スルノ情真ニ愛スベキモノア
リキ正造乃チ村長及巡查一名ヲ伴フテ社頭ニ
上ル社掌ノ神官亦幹旋最モ懇篤ナリ偶々警視

總監官房第二課保安係長谷川守三至リ暫ニシ
テ陸軍憲兵大尉安田重朝今少尉桐生定政等相
次テ至リ千住警察署長某亦警部一名ヲ隨ヘテ
至ル時ニ請願人中再ヒ泣訴、声ヲ高メ來ルモ
、アリ訴ヘテ曰吾々ハ一昨夜未曾テ一睡セサ
ルノミナラス刺ハ憲兵ノ為メニ蹂躪セラレ殊
ニ埼玉警察官吏ハ請願人ノ飲食ニマテ干涉シ
村長等ニ嚴命シテ炊事用ノ鍋釜マテモ貸與セ
シメス其酷待實ニ悲憤ニ耐エサルモノナリト
泣訴ノ声ハ變シテ憤怒ノ声トナリ四方相呼應
シテ喧囂漸ク其度ヲ高ハ此ヨリ先キ正造ハ村
長ニ囑シ白米五俵ヲ購フテ食事ノ準備ヲナス

炊爨ヲ始ムルモノ凡七八ヶ所村長村會議員、
身ヲ以テ手ツカラ握飯ヲナシ夕日正ニ午後二
時請願人ノ殆レテ猶未夕至ヲサレモノ漸ク此
時ニ至リ来リ會スルモノ陸續多シト至時機ノ
後ル、ヲ恐ルカ故ニ正造ハ殊更ニ巡查一名
ト軍人太尉少尉二人及警視警察ノ官吏六人ト
土地ノ村長議負等ヲ立會シメテ言論ヲ託臆ス
ヘシトハ注意ヲ促シ而テ後チ社頭ニ立チ大勢
ニ向テ左ノ趣旨ノ演説ヲナレタリ
皆様私ニカ田中正造テアリマス知ラヌ御方
ノミノヤウテスカ中ニハ十中ノ一位ハ私ヲ
シル人モアラン然レトモ皆様カ大勢出京ノ

理由ハ正造能ク之ヲ知レリ實ニ本月ノ大洪水ハ又々鑛毒ノ侵害ヲ加ヘ二十九年ノ洪水ヨリハイカラカ水量ハ低クケレ山岳ノ崩落ト河床ノ埋没トヨリテ却テ水量ヲ高メ又洪水ノ速達一層急激ニシテ水量相高ニ忽テ堤塘ヲ没シテ村落ハ鑛毒ノ泥水中ニ没セラレ家屋ハ毒浪ニ漂フテ浮キ流サルアリ其悲惨想像ノ及ハサル極ニ達シ茲ニ不得已萬死ヲ冒シテ出京セシモノナラシ一昨年ヨリ昨春ニ涉リ數十支町村長カ連署ノ上地方廳ヲ經テ中央当局諸大臣及帝國議會ニモ再度マテ憲法々律ノ保護ヲ與ヘラレ度旨ノ請

願書ヲ奉呈シ其他大小ノ請願陳情書等呈出セシモノ前後相繼キ其種類極メテ多キニ関ハラス議會ハ解散ノ教ヲ重テ政府ハ之ニ對シテ何等ノ処分ヲモ為サ、ルヲ以テ請願ノ返答ヲ政府ニ需ムルカ為ニ農商務省内務省ノ門前ニ至リテ返答ヲ得ルマテハ餓死スルモ退カサルトノ決心ヨリ出京セラレタルニ相違ナク其衷情ハ真ニ察スルニ餘リアル次才ナリ皆様何故ニ足尾銅山鑛毒被害人ニ限り多年間憲法々律ノ保護ナク所有權ハ犯サレ教育ハ無視セラレ衛生ハ害サレ田園ハ荒ラサレ

渾テノ生業ハ損害ヲ受ケ且ツ停止セラレテ
居ルノテアリコトス力是レ皆人為加害ニシテ
現今ノ法律ヲ以テハ如何トモ為スヲ得サル
モノナリ例ヘハ財産ヲ失フテ公権ヲ剝奪セ
ラル、如キ是レナリ通常無毒洪水ノ為ノ荒
地免租トナリ夫ト今時ニ公権ノ消滅スルハ
被害民ト虽トモ能ク信スル如ナリ今鑛毒ノ
タノ免租ト今時ニ公権ノ消滅ニ至ルト虽
モ此ヲ存續セシムル法律ナク從テ存續セシ
ムルヲ能ハサルハ現行法律ノ如分トシテハ
尤モナリ然リト虽凡人為ノ加害ヨリ財産ヲ
奪ハレ生命モ奪ハレ權利モ剝奪セラル、ノ

電話新橋一三七一七京橋區加賀町一協信舎印行

理由ナシ財産回復スヘシ公権ノ利存續スヘ
シト云フ被害民ノ云フ如ク又当然ノ理由ナシ
ハ双方ノ主張各確乎タル一理アリテ互ニ衝
突ヲ免カレサル次ナリ又町村制ノ如キモ
此ノ被害地ノ實力ナク即チ自治ノ力ナク從
テ公権ノ消滅ニ町村存テ破壊ニ至リ町村
制ハ為メニ反古トナリテコレヲ執行スル免
トサル法律上名譽權利財産ナキ亡滅ノ町村
ニ對シ地方官ハ旧ノ如ク正式ナル町村制ヲ
適用シテ無害地ニ様ニ國家ノ事務ヲ監督シ
已ニ高級ノ職務管掌吏ヲ派出シテ無財産ノ
町村ヨリ町村税ヲ徴収セシトス而テ其町村

破滅ノ実況ヲ隠蔽シテ鑛毒加害ナキヲ証セ
シトス如此事々物々法律ニ嵌マラサルハ鑛
毒被害地ノ惨状如何ナク独り提防改修増築
及請願権ニ就テハ今其現行法律アリトモ
其他ハ相当ノ法律ナク又鑛業条例等有功ノ
法律ハアレモ政府ハ之ヲ以テ人民保護ノ実
行ヲナサバル為メ常ニ衝突ヲ免カレサルナ
リ又其損害ニ至テモ有形無形ノ損害ハ計ル
ハカラス僅カニ十九年ノ計算ト三十年ニ於
ケル人民ノ損害ト國家ノ損害トノミヲ合セ
テモ有形上ニ於テ四千万円以上ニ登ル可ク
此他無形ノ損害ハ間接ノ被害ト及ヒ官有林

野池沼河川魚獵禽獸介虫類ヲ捕獲ヲ以テ生
業ヲ営ムモノ數千ノ多キニ及ヒタリシニ皆
悉ク其業ヲ廢スルニ至リ且ツ衛生ヲ害セラ
レタル為メ陸シムヘキ病ノ者ヲ生シ生業ヲ
廢セラレタル為メ貧苦骨ニ徹スルニ至リタ
ル等其救放拳ニ違アラス乍併正造ハ社會ノ
秩序ヲ保タシカ為メ諸君ニ圖ラサルヲ得ス
別々斯ノ多勢入京セラレハ不可ナリ正造
ハ自ら省ミル所アルニヨリ御止メ申サレ
テ得ス凡此ノ如キ一大國家問題ニ就テハ
局ノ責任者ハ勿論國家志士仁人及其他渾
テ先覺名譽アルモノハ此被害者ニ先テ其

責ヲ負フモノナリ就中政治家ハ國家ノ憂ニ
先シテ之ヲ憂フル是レ政治家ノ本分ナリ
又当局者タルモノ、責任ニ至テハ更ニ之ヨ
リ重ニ畢竟請願書ノ出ルヲ待テ然ル后云
々スルハ常ノ事ナリ請願ノ出テナルニ先テ
テ之ヲ処分スルヲ以テ責任ノ至リト云フナ
リ今ヤ諸君ノ慘状ヲ見テ諸君ノ訴ヲ見テ政
府之ヲ救ハス社會亦之ヲ救ハサルハカラサ
ル勿論ナレト立法院タル衆議院モ本年再
度ノ解散改撰トナリ新任ノ議員モ多クナリ
新政府ハ加害被害ノ事情ヲ知ラサル可カラ
サル筈ナレト内閣ノ交迭屢ニモテ農商務大

臣大丸正年間二十人ノ交代トナリ實ハ新任
ノ内閣新任ノ役人ナレト是亦加害ノ激被害
ノ慘ヲ知ルモノナリ被害民ノ不幸ト加害
者ノ幸福トハ大差ヲ生シタルモノアリ又古
類ノ役人アリトモ當局者ニアラサルモノ
ハ此被害民ノ慘状十カ一二モ知ルモノナシ
又当局各省責任ヲ分ツモノ數十謀アリ實ニ
鏡毒被害問題ハ他ノ普通洪水乃至地震噴火
海嘯火災等ノ如キ淡泊ニシテ單純ナル問題
ニアラス又社會モ火災震災等ニ対スルカ如
キ經驗ナク隨テ同情ナク今古未曾有ノ問題
ナレト當局者ニアラサル役人ハ如何ニ古類

ノ者ト至其其况ヲ知ラサルカ為ノ之ヲ如
何トモ為ル克ハス
願ミシハ昨春鑛業停止請願ノ為ノ数千人ノ
被害人出奔入京セントセシ中モ諸君ハ利根
川ノ橋ヲ撤セラレ寒風肌ヲ裂タリ候迄寒針
ヲ以テ刺ス如キ水中ニ飛込シテ幸ラクモ自
ラ橋ヲ架シテ渡リ又埼玉縣岩槻ニテハ巡查
数十人ノ突貫ニ逢フテ散乱負傷ニ漸ク板橋
崩ニ連セルモノハ六七百名ニ過キスト云フ
ト至此此間不馴ノ旅行ト寝食ノ欠乏ヨリシ
テ帰宅ノ后病ヲ死スルモノ下野ノ安蘇郡界
村大字高山ノミニテ二人而モテ此死亡者ハ

〔電話新橋〕三一七二京橋區加賀町〔協信會印行〕

孰レモ皆老人ナリ高山ノミニテ二人アリト
スレハ全体ヨリ云テ云ハハ二十三人ノ病死
者アリモテラト信ス今回モ亦此轍ヲ踏テ
或ハ病臥斃死スルモノ等ナシトモ云ハス若
シ農商務内務文門前ニテ死スルヲ得ハソレ
テ諸君ト満足ナランモ否ニテモ行カス
ニテ帰國后病ヲ死ニ至ル等アラハ実
ニ残念ノ次才也
國家如此不幸ノ民アルヲ知ラハ官吏及議
員ノ如キ皆率先決心死ヲ以テ之ヲ救フヘキ
責任ノアルモノナリ彼ノ兵役ニ就クモノヲ
看ヨ日清戰爭ヲ見テ知ルヘシ寒天雪ヲ冒

敵ヲ突テ陣頭ニ死スルモノ多キヲ知ラス
ヤ扱國家ノ為メ死スルハ兵ノミノ責任ニ
ラス軍人及ヒ一般ノ官吏モ立法院モ然ルモ
ノナリ兵士ノミヲ以テ國ノ為メ死スルモ
ノト思フハ大々的誤リナリ
第一正造ハ日本ノ代議士ニシテ亦其加害被
害ノ顛末ヲ知ルモノナリ故ニ衆ニ先チテ尽
カスヘキハ正造力当然ノ職分ナリ諸君已ニ
非命ニ斃ルヲ見ル正造ハ諸君ノ死ニ先ニシ
テ死ヲ決セサルヘカラス然レモ新政府ハ未
タ此慘状ヲ知ルモノ少キハ茲ニ正造力述ヘ
タル如クナシハ新政府ノ人々ニ説明シテ被

電話新橋二三二七(京橋區加賀町)協信舎印行

害ノ慘状ヲ陳述スル、一大必要アリ何トナ
レト被害民ノ身体疲レ且二昼夜モ寢食ヲ欠
キタルモノヲ迎フルニ兵士ト警吏トヲ以テ
橋ヲ撤道ヲ抗レ渡船ヲ奪ツテ渡ル克ハカ
ラシメニ等殆ト竹鎗否北敵ノ襲ヒ来ルニ備
フルモノ、如シ之レ誠ニ事實ニ通セス事態
ヲ解セサルカ為ニシテ全ク誤解ヨリ此残酷
ヲ加ヘタルモノナラン
世ノ中ニハ知ラヌモノ程怖シキモノナリ
如何ニ奔走シ如何ニ説明シタランニハ此被
害ノ慘状ト人民苦痛、真相ヲ披瀝シテ以テ
能ク願意ノ貫徹スルコトヲ得ルカ是レ正造

等カ同志諸氏ト共ニ新内閣ニ説明ノ勞ヲ取
ラント歎スルノ決心ナリ
今一ツハ現政府ハ憲政ノ政黨ニシテ諸君ノ
地方モ旧自由旧進歩黨員ノ少カラサルナラ
ニ即チ諸君ノ中ニハ旧自由旧進歩黨員モ少
ナカラサルヘケシハ今日ノ政府ハ即チ諸君
ノ政府ナリ又我々ノ政府ナリ我々ノ政府ナ
レハ充分信用ヲツテ及ハサル処ハ助ケサル
ヲ得スヨツテ我々ハ諸君ニ代リ政府ニ事實
ノ説明ヲ採リ諸君ノ願意徹底ヲ計ルヘシ故
ニ諸君ノ内ヨリ惣代十名以下ヲ残シテ一全
ハ早ク御帰國アラレト之レ正造等カ只管相

談ニ及フ所以ナリ
又御帰國ノ上ハ新任知事及大小議員郡長町
村長等ニモ充分説明セラレサルヘカラス彼
等ノ過半ハ或事情ニヨリテ加害者ニ加担シ
ツ、ヤレシハ充分骨ヲ折テ事實ノ真相ヲ告白
シ以テ彼等ヲ安執ヲ打破セサルヘカラス又
專ハラ大小局外者ヨリモ合情者ヲ多ク求メ
協力ヲ願ヒ中央ニ於テ万一政府ハ事實ヲ解
スル後チ至リテモ尚処分ヲ急ルアラハ正
造ハソレヨリ諸君ニ率先シテ諸君ヲ同伴シ
テモ出京センノミ
今一ツハ中央政府君ニ正造及同志等ノ説明

ヲ用ヒサレハ正造等ハ議會ニ於テ責任ヲ負
問ニ亦社會ニ向テ当局者、不法ヲ訴ヘシ其
トキ諸君ハ此事ノ通知ヲ得ハ御出京モ御隨
意ナリ正造ハ再度決シテ御止メ申スマシ否
、唐ニ御止メ申サ、ルノミナラス其時コソ
ハ正造ハ諸君ト共ニ進退スヘケレハ夫レマ
テ諸君カ今日死ヲ決シタル生命ヲ保タレタ
シ之ソ正造カ諸君ニ誓フ所諸君希クハ採用
アツテ今回多數ノ入京ヲ止メ速ニ歸國アラ
ル、標正造ハ噓ヲ云ヒマセン申シ述ヘタル
通りニ実行イタシマス云々
ト演ヘ終リタリ

請願人等皆静粛傾聴ニ無量ノ感慨禁スル能
ルモノアリテ然ルヤ歎歎流涕スルモノ數百人
或ハ声ヲ放テ悲泣憤慨スルモノアリ吐中皆動
テ悲惨ノ情察スルニ余リアリテ正造為メニ動
カサレワ、吐ニ復セシトシ左右ヲ顧ミレハ憲
兵將校下士卒及警部巡查等一人ノ眼中涕ナキ
モノアラサリニ正造此ニ於テカ以為ヘラテ軍
吏警官モ亦人ナリ此誠實ニシテ血アリ涕アル
人々ニシテ此憐ムヘキ被害ノ行路ヲ妨ケ
刺ヘ之ヲ酷遇虐待ス知ラス是果ニテ何ノ為メソ
道路傳唱スルモノアリ曰ク加害者古河市兵衛
ハ行政官及軍人ヲモ左右ニ使役スルモノナリ

小正造ハ其何ノ謂タルヲ知ラス惟フニ上下意
志相通セス互ニ相誤マラルノ致ス所ナラン
演説終ルヤ此時請願人中栃木縣人野口春藏社
頭ニ登リ立テ反對ノ意ヲ述テ曰ク
政府ノ答弁ヲ得ルマテハ此地ニ留リ一寸モ
動カサルヘシト
群馬縣人亀井明次郎モ亦立テ憲兵ノ暴横ヲ述
一其理由ヲ聽カントセリ
一行中群馬縣邑樂郡大島村関口某ハ滂淚潜々
廊下ヲ叩テ憲兵警官ノ無情ヲ訴テ正造ノ面前
ニ來リ訴ルカ如キモノ多数アリ偶々其面ヲ知
ルモノアレバ其名ヲ知ラス此ノ時憲兵大尉安

電話新橋一三七一(京橋區加賀町)協信舎印行

田童朝ハ左部彦次郎ヲ紹介シテ以テ一行
衆向ニ諸君ノ訴ヲ如ク憲兵ノ不法若シ事實
大ニ充分取証スルキニ依リ負傷者ハ千
位ノ氏所傳來ルヘシト述ヘテ野口春藏一行
ノ利害ハ一行ノ責メナレハ一行カント云ヒ
一合ハ大声ヲ我々決意テ事實ヲ故造シテ無
キヲ有リトシテ訴ル事ニアラスト喧嘩スル
モノ異口同音又且ツ大尉ハ自ラ非ヲ掩フモノ
ナリト呼號セリ
此形勢ヲ見ルヤ千住警察署長ハ遽然吐テ去ツ
テ歸ル是レ大勢ノ如何トモスル能ハサルモノ
ト判断シテ千住ニ馳テ歸リ全町ノ橋頭ヲ護ル

準備ヲ勤メタルモノナリト云フ已ニシテ各
村ノ重モナルモノハ社頭裏庭ニ會議ヲ開キ衆
議百出ノ右遂ニ正造ノ意ヲ容レ一行中惣代ヲ
撰ミタリ但シ正造ノ十人以下ナルヲ五十人ト
改メタリ
右相談ノ結果ハ大出喜平谷元八等之ヲ報告ス
此時請願人中亦憲兵警吏ノ横暴ヲ訴フルモノ
アリ一合憲兵此所ニ赴カント喧噪セシモ幸ヒ
克ク之ヲ制スルモノアリテ漸ク止ムヲ得タリ
憲兵大尉安田警視總監官房係長谷川等モ厚ク
謝辞ヲ述ヘテ引キ揚ケタリ被害人ハ一合モ涙
ヲ飲ミ信ヲ政府ニ置キ一夕善后ヲ約シテ帰國

ノ途ニ就キタリ正造等モ又今朝來合行セシ巡
査及ヒ村長議負等ニ謝シテ訣ル歸途千住宿橋
頭ノ邊ニ警官数十百人克ク道路ヲ塞キテ旅人
ノ通行ヲ妨クルヲ勤ムルヲ見テ正造直ニ合所
警察署ニ至リ其魚益ノ妨害ヲ解カシメタリ
右ノ次才ナレハ警視總監軍人大尉及警察署長
其他ヨリ當時報告及復命ノアリタル答ノモノ
ナレトモ豈計ラニ尔來内務大臣次官ヲ始メ公
務ノ多忙ヲ名トシテ總代及正造等ニ免角面會
ヲ避クルニ依リ大ニ疑團ヲ生セルノ折柄内閣
交迭アリタル次第ナレハ余儀ナク當時ノ實況
ヲ略記シテ被害人民ノ慘狀ヲ証明スルモノナ

リ
後ニ聞ク此上京セル被害民、多年鑛毒水害ニ
困窮セルモノニシテ果ニテ此上京者、数百間
ノ水害ニ止ムナク毒食ヲナシ此旅行中痛ク寢
食ノ欠乏アリシト一昼夜間ニ涉リテ露宿ヲ為
シタル為メニ老体ノ如キハ保不間滞在中心ヨリ
既ニ病トナリ帰郷后倍々病床ニ卧シタルモノ
多シト云フ
又聞ク所ニヨレハ此ノ上京被害民ハ鑛毒稀薄
地ノ被害民ニアラスシテ極メテ激甚ナル被害
村ノ窮民ナリ而シテ此ノ行路ノ途中露宿ニ夜
ニ及ニテ東京ニ達スルノ間寢食ヲ欠キ或ハ妨

〔電話新橋一三二七〕京橋區加賀町一協信舎印行

害セラレタルノ前陳ノ如シ而シテ此旅行ノ
失費ハ又實ニ驚クヘク被害民カ郷里ヲ出立
セル時ハ凡ソ一万三千人ノ多キニ及ヒ此力失
費ヲ略計セハ實ニ左ノ如シト
一日一人ニ付三十弍ツ、最下等旅費ニ積ル
モ七千五百円余途中利根川ノ渡船ヲ喰ヒ止
ムラレ夜間僅カニ一路ヲ忍ヒテ利根川ヲ渡
リ又夕警吏ノ為メ船ニテ送り歸サレ此ノ困
難ヲ忍ヒテ東京府下保木間ト云フ処迄來リ
シモノ略三千余名此ノ行路ハ一日ニシテ保
木間ニ滞留一日トセハ三日ナリ一日一人ニ
十弍ツ、トシテ最下等ノ旅費ニ積ルモ此ノ

金二千七百田帰途ハ最下等汽車ト見積リ一人六十八爰此金二千。四十田入京總代五十名凡ソ十日間滞在金五百田余合計金一万二千二百四十田ノ多額ニ至ル
右ノ如ク窮困ノ被害民カ一時ニ此ノ非常ナル失費ヲナシツ、モ東京府ニ達シ漸ク政府ヲ信シ總代ヲ留メテ帰國セシハ可憐ニシテ穩便ナル良民ナリト謂フベシ然ルニ何ソ計ラニ政府ハ此ノ良民ヲ愛護スルコトヲサス却テ總代カ内務省農商務省ニ出頭シ極メテ着實ニ面謁ヲ求メタルニ大臣次官等此ヲ謝絶シ悲惨ノ情ヲ陳スルヲ得サラシメタリ乍明治廿九年以

來呈出シアル諸請願ノ實踐ヲ請フ為ト目下ノ浸水ノ救助ヲ求メン為ニ幾多ノ苦痛ヲ忍ビテ大勢出京シタルモノナレハ如何ニ酷遇サルトモ願意ヲ徹底スル迄ハ實際止ム克ハサル才ナルニ事ヲ左右ニ托シテ面会ヲ峻拒シタリ只僅カニ農商務大臣ニ於テ面謁ヲ許セシモ是亦徒ラニ時日ヲ遷延シ為メニ憂悶ノ情ヲ増サシメタルコト幾何ナルヲ知ラス試ニ思ハ此ノ總代等ハ當時洪水ニ家屋ヲ流亡セラレ或ハ壁落テ棟傾キ氾濫セル毒水ハ未タ其床上ヲ忞ラサルノ破屋中ニ憂スヘキ家族老幼ヲ残シテ幸クモ出京シタル者ニ非スヤ然ルニ面會期日ヲ

遷延シタルカ為メ此ノ間郷里ノ老幼旦夕衣食
ニ叫フノ報頻リナリヨリ止ムナク恨ヲ吞シテ
一時帰國セサルヲ得サルモノ少カラス然ルニ
此際又悲シムヘシ前内閣ノ全党中ノ軋轢ニ忙
ハシク此ノ被害民ノ惨情ヲ顧ルモノナシ如斯
廿九年以來内閣ノ屢々交迭アル毎ニ山林ノ盜
伐濫伐時ヲ選ハス被害民ハ此無政府全様ノ境
遇ニ挾リ益々死地ニ沈淪シテ空ミク歲月ヲ送
リ山林ノ濫伐絶ルトキナク山岳倍々荒亡崩落
シ洪水ノ水量旧日ニ教倍シツ、アルモ被害民
等ハ毫モ為ス知ラズ或ハ兵馬ヲ以テ屢々
請願ノ進路ヲ妨ケラシ或ハ警吏ノ為メ罪ナク

シテ永ク獄裡ニ呻吟セシメラレシ等酷遇ニ酷
遇ヲ重シ乱暴ニ乱暴ヲ繼續セラレ今亦一時ニ
多額ノ失費ヲ致シ或ハ家財ノ紛乱損傷アリ其
ノ悲惨ノ種目教ヘ來シト筆舌ノ尽ク能ハサル
状情ナリ刺ヘ教百人ノ疾病患者ヲ生ヒタルハ
此ノ請願ノ行路中皆ナ官吏ノ虐待ニ苦シメラ
レタルヨリ原因シタルモノトセハ此レ憲法々々
律ノ保護ヲ為サ、ルノ極ニシテ寧ロ政府ハ此
ノ被害民ノ生命ヲ奪フモノナリ實ニ無殘酷薄
ノ至リト云フヘシ被害民ハ今ヤ資ヲ投シテ請
願ノ為ニ奔走スル克ハス悲痛ニ悲痛ヲ重シ其
極ヤ或ハ怖レ終ニ父母妻子ヲ攀ケテ官衙法廷

ニ泣訴スルノ止ムナキニ至ルヲアラシク然レ
此正造等ハ再ヒ此ニ對シテ慰諭スルノ道ナキ
ノミナラス却テ其泣訴ニ全情ヲ表シテ止マサ
ル者ナリ政府ト雖ル斯ル無情ノ処為テ再三ス
ル者ニハ非サルヘシ現政府ハ果シテ此ヲ以テ
如何トス
尚上京者當時ノ実状ヲ探索シタルニ實ニ左ノ
如キモノアリ記述中或ハ重複ニ亘ル個所ナキ
ニ非ルモ其正確ナランヲ欲スルカ為メ今茲ニ
詳叙スルコトナシマ
九月廿七日午后七時頃請願上京者中先手ノ者
埼玉縣南埼玉郡櫻井村ニ達ス時臆テ黄昏ニ際

〔電話新橋二三一七〕京橋區加賀町〔協信舎印行〕

セシヲ以テ豫テ用意ノ割麦ヲ炊キテ夕飯ニ充
テント欲シニ三ノ總代ハ全村々長(深野常三郎
氏)ヲ訪フテ炊具ノ貸与ヲ乞ヒシニ許サレス立
疾リテハ更ニ再三至リテ懇望スレモ固ク拒ニ
テ應セス終ニハ其門ヲ鎖シテ入ラシメス村長
ニシテ此ノ如シ此ノ附近ノ民家ニ就キテ求ム
ルモ容易ニ受諾スルモノナキヤ知ルヘシ漸ニ
シテ夜十時頃迄ノ間ニ於テ左ノ三ヶ村ノ篤志
家ニ就キ食物炊ハ之ヲ炊クヲ得タリト雖モ素
ト数千ノ者悉ク之ニ満足ヲ与フルコトヲ得シ
ヤ中ニハ夕飯ヲ喰ハサルモノモ多カリキ而シ
テ右一行ノ者ハ或ハ其擔下ヲ借り納屋ヲ借り

芭蓆ヲキテ卧スルヤ米或ハ路傍ノ樹ノ下ニ菰
毛布ヲ敷キテ卧スルアリ今夜ハ生憎天晴シテ
露タタク半夜衣肘ハ濡シテ滴ルニ至リ寒サ肌ニ
徹シテ眠ルヲ得サリキ
帰御后登熟或ハ下痢症ニ罹リシモノ其十分ノ
二三ニ居ル是レ蓋シ飲食ノ常ヲ得サルト兩三
夜ノ野宿ニ湿氣ヲ受ケシニヨリテ今夜炊
具ヲ食與ニ或ハ家屋ノ一隅又ハ納屋等ヲ賃シ
上京者ヲ憇ハシメシ篤志者尤ノ如シ
南埜玉郡武里村大字大場
小暮吉藏 外未詳
全郡櫻井村大字大里

中村喜八 會田友吉 中村半藏 深野権左
工門 宇田多左工門 永野新五郎
永野久次郎 藤井清次郎 荒井伝吉
全村大字下マクリ
金子勘太郎 高橋清次郎 外未詳
全郡大袋村大字大里
全黒田権藏
全村大字大林
瀬尾哲太郎 岩瀬彦太郎 岩瀬喜八
飯山平十郎 會田勝五郎 會田傳五郎
會田八五郎 原田金次郎 瀬尾子之吉
瀬尾常吉 瀬尾平次郎 上原彦四郎

野沃辰五郎

一行中ニハ食ヲ炊カシニ携帶ノ品既ニ尽キ夕
ルモノアリ鍋釜ヲ借ルト共ニ保セテ之ヲ求メ
買フモノアリ或ハ家ニテハ其代價ノ半額ヲ受
テ殘額ヲハ之ヲ惠ミ而シテ人ノ問フアラハ其
金額ヲ托ヒタリト謂ハレシヲ望マレタリ此
ニ蓋シ陰總ニ出ルモノカ將タ或ハ他ニ蟠ル事
情アリテ然ルカ櫻井村ニテ炊具ノ得難キ為メ
夜ニ及シテ大沢及越ヶ谷ニ至リタルモノアリ
上京者一行多クハ昼夜兼行兩日ニ涉リ夜ハ屋
外ニ露ニ曝サレ飢ヲ忍ヒ寒サヲ凌キテ此ニ至
ル為メニ疲労者アリ或ハ病人トナレタリ此

〔電話新橋二三一七〕京橋區加賀町〔協信舎印行〕

等ノ者ハ同志ノ懷ヲ寄セテ此ノ二駅ノ旅店
ニ宿セシメシムニ欲シ行キテ之ヲ求メ此時
既ニ旅店ハ巡查憲兵ノ專占スル所トナリ數多
キ二駅ノ旅店ニシテ上京者ニ愛ヲ割キ病者ノ
一人ニモ憐ハシムルモノナキニ至テハ殆シト
無情ノ極覺ヘス涙潛々トシテ禁スル克ハサリ
キ此等ノ者ハ止ムナク此処ヲ去ラ越ヶ谷駅ノ
南外レ字瓦曾根ニ至リ街道ノ東ナル觀音堂ノ
境内ニ樹木アリ田圃ニ溝渠ヲ以テス此処ニ到
リ憇フモノ百數十人皆病者疲労者ナリ然ルニ
因テサリキ深夜憲兵人數サナキヲ見カケテ又
茲ニ来リ已レ等帰レ帰レト乗馬ヲ以テ縱横ニ

駈ケ廻リ暴虐ヲ極ム衆為ノニ愕キ或ハ溝渠ニ
落ルアリ或ハ馬ニ踏コルアリ其殘虐能ノ筆
舌ノ尽ス所ニアラス堂ノ西ニ当リサシク離レ
テ旅店アリ(俗ニ桶入ト呼ブ由)此ノ疲カレシ者
深夜路傍ニ横卧シ居ルヲ見テ憐レトヤ思ケシ
裏庭ニ席ヲ敷キテ休マシム憲兵亦店頭ニ来リ
被害民カ居タラ出セ出セト迫リタリ右ノ上京
者ハ其殘虐ニ居堪マラス夜ヲ破ツテ出京ス九
月廿八日午前八時頃上京者先手ノ者ハ東京府
下南足立郡洲江村大字保木間ニ於テ(千住ヲ去
ル畧一里ノ処)東京ヨリ代議士田中正造氏巡查
一名ヲ隨ヘ来レルニ邂逅ス代議士ハ上京者一

(電話新橋二三一七)京橋區加賀町(協信舎印行)

同ニ聞カシムヘキトアリ強テ一行ヲシテ此
ニ止マラシム
全村々長坂田正助氏其他有志者等ノ斡旋ニ依
リ全村天満社境内其他数ヶ所ヲ以テ上京者ノ
休息所ニ供ス代議士ハ是後シノ者大体揃ヒタ
リト聞キ更ニ一同ヲ天満社ノ境内ニ集メ午後
〇時三十分頃代議士ハ後ニ駈ケ加ハ、リタル
憲兵將校及警部等ヲ立会ハシメ社頭ニ起テ縷
々長時間ノ説諭ヲナシ総代ヲ選ミテ上京セシ
メ他ハ皆帰ルヘキヲ以テス上京者一同ハ憲兵
等余リノ虐待ニ憤激一方ナラス容易ヲ聞クヘ
キノ色モ見ヘサリシカ午後四時半頃迄ニ漸ク

協議成り左記ノ者総代ニ選マシテ上京スル
ニ決シ其他一同帰途ニ就ケリ

栃木縣安蘇郡植野村

谷元八郎 房吉 新井準次郎

界村

野口春藏

大伏町

須藤亀吉 小曾根信吉 石井郡三郎

熊倉慶三郎 藤浦貞藏

足利郡久野村

稲村與市 室田忠七

吾妻村

電話新橋一三二七三京橋區加賀町一協信舎印行

庭田恒吉 寺島伊勢松

筑波村

坂本與三郎 中村庸四郎

毛野村

須永豊作 岩崎佐十 上武幸十郎

小野寺兵次郎

栗鹿村

荒山仲次郎

山前村

増田関吉

群馬縣邑樂郡大島村

大出喜平 青木金次郎 山本栄四郎

渡良瀬村

木村勇吉

多々良村

福田和壽藏 永沼政吉

田入利三郎

大筒野村

小島京藏

奇藤弥市

川田栄吉

飯島新太郎

海老瀬村

市沢萬平

針谷佐吉

松本英一

伊奈良村

高際善十郎

高際清吉

赤羽村

坂村徳次郎

渡辺弁藏

西谷田村

北山清次郎

野中彦四郎

長谷具弥十郎

郷谷村

越決丑次郎

坂村久次郎

山田郡桐生町

水野茂吉

毛里田村

中島安太郎

埼玉縣北埼玉郡利島村

石川一

川邊村

井田兵吉 田口直吉

増田弥太郎

栃木縣下都賀郡谷中村

茂呂近助

外住所不詳

櫛田元三郎 福田貞藏

而シテ右總代等モ一家ヲ毒水ノ裡ニ残シ置キ
タルニ依リ永ク滯京シテ請願事務ニ奔走スル
ヲ得ヌ兩三名ヲ殘シテ不本意ナカラ列返ハサ
サルヲ得サレノ哀情洵ニ憐ムヘキ極ハミト謂
フヘシ又九月三十日東京府南足立郡長千石
作ト今郡湊江村々長坂田正助氏論談ノ一端ヲ
記セシニ九月三十日湊江村々長坂田氏南足立
郡町村長會議ニ列ス折柄他町村長ハ坂田氏ニ

〔電話新橋二三七〕京橋區加賀町〔協信金印行〕

村シ皆夫々ニ前々日上京者ニ對スルノ勞ヲ謝
セラレタリ独リ郡長ハ村長坂田氏ニ向ヒ何故
ニ上京者ノ為メニ斡旋セシヤト其理由ヲ問ヒ
且ツ其処置ヲ詰ル村長坂田氏ハ代議士田中正
造ヨリ憲兵警察官等立會フヲノ類ニナリシ故
時宜ハ然ラサルヲ得サル旨ヲ弁疏ス
郡長語勢ヲ強メ何故拒絕サレサリシヤト云フ
村長拒絕シナケレハナラヌト云フ理由ヲ及問
ヌ郡長若シ失策ニナツタラハ本郡一般ノ面
目ヲ汚ス次弟ニハ其標ノ事カアルニナセ通報
ニナイノテスト村長其標ノ事ニ迄御差回ハイ
リマスマン私ハ私シ一己ノ料簡ヲ取計ラツタ

ノラスカラ後令間遠カ出来テ死ニ至ルモ悔ヒ
コセヲ郡長何ニモ人ノ為ニ死ヲ下ハアルマイ
ト冷罵村長ヲ辱ム) 村長貴下ハ行政上ノ職權ヲ
以テ其様ノ事ヲ云フノカ或ハ誰カノ差因テ云
フノテスカト郡長ソウ細カニテシハ此所テハ
谷井ニマカラ郡役所ニ来ルヘシ村長私ノ方カ
ラ郡役所迄行ッテ聞ク必要ハアリマセ又云々
ト以上郡長ト村長トノ間ニ於ケル一場ノ議
論ニ過キスト虽氏亦以テ当時実況ノ一端ヲ窺
フニ足ルヘシ

明治三十一年十一月 日奉呈

〔電話新橋一三七一〕京橋區加賀町一協信舎印行

本問題ハ多年ニ亘ル國家問題ニモテ前年ハ本
年九月廿六、廿七、廿八三日間ノ出来事ニモテ前
内閣ニモ奉呈致シ置矣得共猶茲ニ奉呈仕候
明治三十一年十二月五日

栃木縣安蘇郡旗川村

田中正造

電話新橋二三一七京橋區加賀町二協信舎印行

電話新橋二三一七京橋區加賀町二協信舎印行

